

平成30年度 第2回 平塚市図書館協議会 会議記録（要旨）【公開用】

開催日時	平成30年11月8日（木）14時00分～16時00分
開催場所	平塚市中央図書館3階会議室
出席者	委員 竹之内 禎 会長 小林 利幸 副会長 湊 敬実 委員 中野 友香 委員 跡部 左恵 委員 河野 亜希 委員 事務局 高橋 社会教育部長 小林 中央図書館長 本名 北図書館長 宮脇 西図書館長 佐伯 南図書館長 菊坂 奉仕担当長 高橋 管理担当長 杉山 管理担当主査 平原 奉仕担当主査
欠席者	なし
傍聴人	5名

議 事

（1）今期テーマ「図書館の運営体制の検討」について

・平塚市図書館サービス方針の策定

事務局から資料の説明を行った。

平成29年度第3回図書館協議会の際、平塚市図書館の課題等を整理、図書館全体のサービス方針の策定について提案した。その後、平成30年度第1回図書館協議会では、東海大学司書課程の学生さんの意見等を反映した修正案を提示した。また、方針8つの大きな目標に、もう少し具体的な事業を入れた方が良いと図書館協議会から意見をいただいたので、今回8つの目標に対するもう少し具体的な内容を追加して最終案として提案させていただく。図書館が現在取り組んでいることで今後も引き続き必要と考えることにあわせ、今後図書館が取り組むべきことを各目標に追加した。

【会長】 このサービス方針は今後どのように公開されるのか。

【事務局】 まず、ホームページで公開していく予定である。

【副会長】 目標③の中の「地域資料のデジタル化」について質問だが、平塚市図書館が所蔵している資料をデジタル化するということでよいか。

【事務局】 現在はまだ資料のデジタル化に取り組めていないが、新しい図書館システムの導入に伴い、資料のデジタルアーカイブが可能となったので、平塚市図書館が所蔵している資料かつ行政資料からデジタル化へ向け着手したいと考えている。

【副会長】 同じく目標③の中の「インターネット等を利用しやすい環境の整備」については、具体的にどのような内容か。

【事務局】 現在、インターネット閲覧用パソコンを配備しているが、それを維持するとともに将来的にはWi-Fi環境も整えていければと考えている。

【副会長】 同じく目標③の中の「オンラインデータベースの活用」についても詳しくご説明いただきたい。

【事務局】 現在、法令や官報及び昨年度から国会図書館デジタル化資料の閲覧が

	できるようになった。今後、より多くの方にご利用いただけるよう周知活用していきたいと考えている。
【副会長】	今提供しているデータベースをより多くの方に活用していただくイメージで考えているのか。
【事務局】	データベースを増やしていければより良いとも考えているが、予算の兼ね合いもあるのでまずは今あるデータベースを活用したい。
【会長】	他に質問がなければ、「平塚市図書館サービス方針」については、事務局から説明があったとおりで進めていただきたい。
【事務局】	「平塚市図書館サービス方針」の策定については、前期図書館協議会からも策定を検討してほしいと要望をいただいていた。今後この方針に基づき、図書館の運営を引き続き検討していきたいと考えている。
・移動図書館「あおぞら号」のあり方を検討	
	事務局から資料の説明を行った。 <p>前回の図書館協議会でも説明させていただいたが、平成30年3月26日に「民間活力の活用に係る具体的業務の取組方針について」が示され、平塚市全体の方針が決定した。その中で、移動図書館業務については、当面直営を維持するが、早急に必要性を検討し、平成30年度中に業務の在り方を見直し、今後の方針を決定する必要がある旨示された。については、移動図書館業務の今後の方向性などについて委員の皆様から様々な御意見をいただきたいと考えている。</p> <p>資料を元に、移動図書館の概要、課題、利用状況、利用者アンケート調査結果及び図書館ウェブサイトアンケート調査結果を説明した。次に、移動図書館を廃止した自治体及び実施中の自治体それぞれに対する調査結果を説明した。</p> <p>現在、考えられる移動図書館の方向性は、「ステーションの見直しや統廃合」、「アウトリーチサービスの充実」、「移動図書館車の小型化」、「移動図書館車の更新」の4点と考えている。この方向性を元に、先ほど事務局から説明した「平塚市図書館サービス方針(案)」にもある、「だれもが知的欲求を満たすことができる、学びの場を提供します」を目標としたサービスを実現したいと考えている。</p>
【委員】	金目小学校は現在移動図書館「あおぞら号」のステーションとなっており、多く子どもたちが「あおぞら号」をととても楽しみに待っている。子どもにとって、学校の休み時間に「あおぞら号」を利用して本を借りることはとてもワクワクする体験のようで、図書館カードや読書通帳を握りしめて待っている子どももいる。資料に「ステーションの見直し」とあるが、学区の中に図書館がない学校にも移動図書館車が行けるようになると良いと考える。 <p>また、資料の中に、「保育園へ移動図書館車が行く」とあるがどのようなものか教えていただきたい。</p>
【事務局】	保育園や幼稚園については、出前図書館というかたちで訪問している。移動図書館車が入ることができる駐車場等を利用し、2～3か月に1回午前中に伺っている。先生や園児が本を選び貸し出し、次の訪問の際ご返却いただくようなシステムとなっている。
【委員】	園児が実際に本を借りるのか。
【事務局】	個人の図書館カードではなく、園に対する図書館カードを使ってもら

	<p>っている。園児も本を選び、園が代表して借りて、その間の本の管理は各園にお任せしている。</p>
【委員】	<p>小学校1年生でも、学校の本と図書館の本を区別できない子もいるので、保育園児や幼稚園児が実際借りるとなると管理が大変なのではないかと思って質問した。保育園や幼稚園へも、もっと訪問してもらえればと考える。</p>
【委員】	<p>資料にある「ステーションの見直しや統廃合」についてはいつ頃行うのか。</p>
【事務局】	<p>具体的にいつ行うかということは決まっていない。</p>
【委員】	<p>「ステーションの見直しや統廃合」を行わない可能性もあるのか。</p>
【事務局】	<p>移動図書館の稼働時間は限られているので、各地域からの要望等も伺いつつ慎重に判断していきたい。</p>
【委員】	<p>私の住んでいる地域にも移動図書館車ができれば来てほしいと思う。私は今要望を伝えられるが、「平塚市図書館サービス方針」の目標②「だれもが知的欲求を満たすことができる、学びの場を提供します」に戻ると、要望の有無にかかわらず、平塚市全域をカバーしないと意味がない。移動図書館車が行くためには、そんなに広い場所がないと難しいのか。</p>
【事務局】	<p>今の移動図書館車は、両扉の側面に本が入っているので、扉を横に開くスペースが必要であると同時に、リフト等入れて8トン車プラス本を乗せているので、それに耐えうる地面であるかどうかとも問題となってくる。そういったことから、移動図書館車を小型化し、様々な場所や施設で活用できないかということが一つの課題となっている。</p> <p>また、移動図書館では、通常の図書館に近い形で利用していただけるよう、2週間に1回のペースでステーションを巡回しているので、ステーションの全体数も限られている。移動図書館車が、行き来できる場所の確保及び安全にご利用いただける場所か、図書館から遠い地域か等全体を考えステーションを決めている。市内全域どこへでも行ければ理想だが、こういった条件をみながら決めざるを得ないのが現状である。</p>
【委員】	<p>私の住んでいる地域の幼稚園に、以前「あおぞら号」が来ていた。先ほどのお話からそれは出前図書館であったかと思うが、駐車できるスペースがあっても市民が利用するためにステーションを増やしていただくことはできないのだろうか。条件があるのはわかるが、難しい難しいと言っている、今後住宅が増え、よりスペースの確保が困難になっていくと思うので、スーパーやコンビニと連携し、駐車場を借りてステーションにするなど対策を練ってみるなど必要ではないか。また、2週間に1回巡回という縛りもなくとも良いのではないかと個人的に考える。</p> <p>図書館は市内4館しかない。小学生や高齢者の方にとっては近隣の方、学区内の子どもしか図書館を利用できないことになる。学区外で近隣ではない地域へ移動図書館が訪問する必要はやはりあるのではないか。</p>
【事務局】	<p>小学生は学区が生活圏内だと思うので、各小学校へ訪問するのが一番</p>

	<p>の理想である。また、スーパー、コンビニをステーションにできれば、地域活性化にも繋がる。現在の移動図書館車は、大型で小回りが利かないので、更新のタイミングに合わせ、ステーションの見直し等も行いたいと考える。</p>
【委員】	<p>今回とったアンケートは何のために利用するためのものか。</p>
【事務局】	<p>移動図書館をどのような方が利用して、図書館にどのようなサービスを求めているか把握するためにアンケートをとった。</p>
【委員】	<p>アンケートをとったのであれば是非活用していただきたい。</p>
【委員】	<p>移動図書館は是非継続していただきたいと考える。資料の利用状況を見ると、学校に図書室があるのに、小学生が多く利用していることに驚かされた。お寺が場所を貸してくれているステーションもあるようなので、先ほどの委員のご意見のように、スーパーやコンビニ等声をかければ場所を提供してくれる施設も他にもあるのではないかと思う。車のサイズを小さくしてでも、色々な場所へ行って、より多くの方が本に触れあう機会を提供していただければと考える。</p>
【副会長】	<p>現在の「あおぞら号」の走行距離が分かれば教えていただきたい。また、資料14ページの移動図書館を廃止した図書館とは具体的にどこの図書館か教えていただきたい。</p>
【事務局】	<p>走行距離は今すぐにお答えできないが、県内図書館、北関東、北陸地方の計3館の図書館に調査協力をお願いした。 <u>※走行距離42, 162キロ (平成30年3月31日現在)</u> <u>平成29年度年間走行距離3, 362キロ</u></p>
【副会長】	<p>県内で移動図書館を運行している自治体は、横浜市、川崎市、茅ヶ崎市、秦野市、厚木市、座間市、箱根町、湯河原町であり、横浜市、厚木市に次いで平塚市は3番目の利用率となっている。15か所のステーションを2週間に1回巡回しているとのことだが、1台で巡回できる場所として、精一杯のサービスを提供していると考え。これ以上のサービスを提供するとなると、車の台数を増やすしか方法がないと思う。先ほど移動図書館車の小型化を検討するという話があったが、小型化すれば、それだけ積載できる本の数も減ることになるので、慎重な検討が必要だと考える。</p> <p>平塚市は4館体制であるが、市の規模（人口約26万人）からすると図書館の少ない地域ではない。横浜市は、人口300万後半に対し18館体制、厚木市は、駅前に中央館1館とその他は公民館に併設した図書室となっている。箱根町や湯河原町は地形などの理由で移動図書館が必要であるし、座間市は、市の施策からも移動図書館を維持していると聞く。秦野市も市の面積を考えても移動図書館が必要だと言える。このように、県内の状況を見ても、平塚市は、地域への図書サービスの提供はある程度できていると考える。プラスして移動図書館を運行しているのは、よりきめ細かいサービスの提供がされている恵まれた地域といえる。</p>
【委員】	<p>資料4ページに利用状況があるが、例えば、小学校には図書室もある</p>

	<p>のに「あおぞら号」がなぜ人気なのか、利用状況に地域差があるのはどのような背景があるのかといったことをどのように分析しているか教えていただきたい。</p> <p>次に、今回のアンケート結果をみると、他の公共機関で予約本を受け取る、郵送でサービスを提供する等個別対応を求める要望も多いようである。また、移動図書館を廃止した市での代替サービスとして、返却ポストの設置や宅配サービスの実施等挙げられている。今後、民間の協力を得るなど代替サービスの提供をどのように考えているか教えていただきたい。</p> <p>最後に、移動図書館は、利用者の利便性を考慮して提供していくのか、将来図書館を利用してくれる子を育てるために提供していくのか根本の方針があれば教えていただきたい。</p>
【事務局】	<p>まず、小学校の利用が多い、また図書室もあるのに「あおぞら号」がなぜ人気なのかということだが、移動図書館車の中で、自分で好きな本を選べるということが普段の図書室にはない魅力のようである。また、利用状況の地域差については、例えば金目小学校やみずほ小学校に利用者が多いのは、近隣に図書館がないということもあり、地域の方にも多く移動図書館を利用していることが影響していると思われる。また、移動図書館の巡回のタイミングに合わせ、おはなし会等の行事を実施している公民館等もあり、そういった公民館も移動図書館の利用者が多いように思われる。</p> <p>次に、代替サービスについては、現在市内には、駅前市民窓口センターや公民館など合計9か所に返却ポストを設置している。郵送サービスについては、一部視覚に障がいをお持ちの方を対象に無料で実施している。郵送サービスは、利用される方が実費負担していただければ実現できるかもしれないが、郵送料などがかかってくると予算上難しい面もある。茅ヶ崎市は、(株)ジェイコム湘南と連携し、高齢者、身体が不自由な方、病気・怪我などの理由により図書館に来館することが困難な方へ、茅ヶ崎市立図書館の資料を自宅へ配本するサービスを実施しているので、そういった民間やボランティアの協力を得て実施できないかも検討していく必要がある。</p> <p>最後に、移動図書館は利便性なのか、将来に向けた利用者の開拓かということについては、両方を目指して提供していきたいと考える。もちろん、一番は利便性ということがあるが、先ほど出前図書館の説明をさせていただいたが、子どもたちに、自分で本を選んで読んで楽しむきっかけづくりになればという目的で出前図書館の事業を始めたということもあるので、そういった面からも移動図書館によるサービスを提供していきたいと考える。</p>
【副会長】	<p>参考までに県内の例を挙げると、移動図書館のサービスステーションに学校を対象としていない市もある。また、移動図書館を出前図書館として活用していない市もあり、考え方はそれぞれである。</p>
【会長】	<p>移動図書館の返却期限はどのくらいか。</p>

【事務局】	次回の運行日としている。基本的に2週間に一度巡回しているが、祝日等の場合は運休となるのでその場合は4週間後の運行日ということになる。
【会長】	運行日を逃すと返却するのが厄介かもしれない。運転手は2名とのことだが、どのような体制で巡回しているのか。
【事務局】	運転するのは一人だが、運転手も現場で設営・貸出・返却等の事務を行っている。3人から4人体制で巡回している。
【会長】	小型化した場合、その体制は維持できるのか。
【事務局】	後ろに補助席等設けることができるので、この体制を確保できる設計で車両を更新することになると思う。
【会長】	現在の移動図書館車は何代目か。
【事務局】	3代目である。
【会長】	スケジュール的にもこれ以上ステーションを増やすのが厳しそうではあるが、要望は多くあると思うので、移動図書館車を2台導入するのはやはり難しいか。
【事務局】	駐車スペース等の面からも難しい面もある。1日3か所巡回している自治体もあるので、やり方を再度見直し、ステーションを増やせないか検討することになる。
【副会長】	準備に加え、予約・貸出・返却作業も行うとなると中々の業務量となる。
【会長】	新規の利用登録も行っているのか。
【事務局】	オフラインで受付をし、事後登録をしている。
【会長】	利用登録後、利用者が新着図書お知らせサービス等ホームページ上で登録することはできるか。
【事務局】	オフラインで受付をしているので、その場ではできないが、事務所に戻って図書館システムに利用登録を行えば可能となる。
【会長】	大学図書館と市立図書館では、蔵書の種類がだいぶ違うので、東海大学へも移動図書館車が巡回してくれればと考える。数ある要望の一つとして加えていただきたい。

(2) 事務局からの報告事項

・平塚市図書館設置70周年記念事業 実施状況

事務局から資料の説明を行った。

平塚市図書館設置70周年記念事業として、「おしえて！みんなのすきな本」募集と展示を各館で実施した。また、「図書館の思い出募集」として、利用者から募集し、お寄せいただいた平塚市図書館の思い出・エピソードや写真と図書館の歴史を振り返るパネル展示を中央図書館で現在実施中、地区図書館でも今後実施予定である。また、「読書通帳」として、平塚信用金庫にご協力をいただき、中学生以下のお子さんに期間限定で配付している。これは、今年6月末に図書館システムが新しくなり、読書履歴を保存することが可能となり、その機能を活用していただくためのPRやお子さんに読書の楽しさをより知っていただくことを目的としている。読んだ本20冊、40冊分通帳に記入していただいた方に表彰状をお渡しする。その他、1月には「本の福袋」、2月には

「過去10年間のリクエストベスト10」を実施する予定である。

・70周年記念キャラクター「ぶくまる」のあゆみ

事務局から資料の説明を行った。

8月に販売開始したスタンプは10月31日現在、約200スタンプ程販売した。読売新聞・東京新聞・神奈川新聞、SCNの宣伝番組、本日配付した広報ひらつか10月第1金曜日号の図書館特集のページでも紹介させていただいた。その後、10月30日から11月1日に横浜市で開催された図書館総合展のキャラクターグランプリヘントリーしたほか、11月10日に青少年会館を中心に開催される浅間祭で、平塚市キャラクター総選挙という模擬選挙のキャラクターとして選出された。この図書館協議会で提案され誕生した「ぶくまる」について、今後もPRし、平塚市図書館をより親しみのある存在にしていければと考えている。

・図書館7月～9月の利用状況、ツイッターの開始

事務局から資料の説明を行った。

今年6月29日に図書館システムの更新を行い、あわせて、貸出点数や予約点数などの変更及び、延滞者に対する利用制限の実施を進めている。7月から9月の利用状況を昨年と比較すると、貸出・返却とともに約5%増、予約については、約19%増となっており、貸出、予約点数の上限が全館で15点に拡大したことによるものと推測される。一方、貸出者数は約4%減となっている。これは、貸出の条件が、各館ごとに7点から全館で15点になったことから、利用者が各館を回って借りる必要がなくなったことによるものと推測される。

また、図書館システム更新にあわせて図書館ツイッターを開始し、文末に「ポー」または「ポ」を入れて「ぶくまる」が様々な図書館情報を呟いている。平成30年10月30日現在、延べ回数26ツイート、4館でそれぞれ発信、フォロワー数については62人である。

ツイッターなどのソーシャル・ネットワーキング・サービスは、情報が拡散されていくというメリットがあり、特にこれまで図書館や本にあまり興味がなかった方にも、利用いただける非常に良い機会と捉え、今後も積極的に平塚市図書館をPRしていく。

(3) 委員からの提案

- | | |
|-------|--|
| 【委員】 | 本日配付された広報誌に、中央図書館のスタンドグラスに本のモチーフが隠されているということが取り上げられており、今度図書館へ行ったときに見てみようという気持ちになった。ツイッターを始めたということは今初めて知ったが、広報していくことはとても大切だと思う。各地区図書館にもスタンドグラスがあると思うので、平塚市子ども読書活動ネットワークが発行する情報誌でも特集してみたい。 |
| 【会長】 | ホームページでもスタンドグラスの由来など紹介していても面白い。 |
| 【委員】 | 本のリクエストをずっと待っていたが、前に借りている方に何度督促しても返却してもらえないので用意ができないと先日言われた。所蔵不明になった本はどうなるのか。 |
| 【事務局】 | 現在も入手できるか、今後も活用が見込まれるか等総合的に判断し再度購入することはある。また、県内図書館に所蔵がないかも確認する。県内図書館に所蔵がないものは県外図書館にも確認したりもする。な |

	お、県外図書館で所蔵があるものに関しても取り寄せることはできるが、館内閲覧のみで提供している。
【委員】	返却されない本は沢山あるのか。
【事務局】	今回利用制限をしたことによってだいぶ減ってはきたが、何度督促しても返却していただけない方はいる。中には所在不明となっていられちゃう方もいるので難しい面がある。
【副会長】	県立図書館でも、県内、県外を問わず利用者の自宅へ督促に出向くことがある。
【委員】	移動図書館でカバーする地域もあれば返却ポストを充実させる地域もあるように、これからの時代、地域の特性によって提供するサービスの種類が変わっていくと考える。神田地区は市民病院への無料のシャトルバスが運行していると思うが、移動図書館で地域に出向くだけでなく、人を乗せて図書館まで連れていくサービスを今後提供するのはいかがでしょうかとも考える。
【会長】	県内図書館で利用者を図書館へ連れてくるようなサービスは例があるか。
【副会長】	そのようなサービスは確認していない。横浜市の市民ギャラリーは最寄り駅から無料バスを定期的に運行していたり、今年の5月に移転した県立川崎図書館は最寄り駅から入居している建物「かながわサイエンスパーク（KSP）」が駅からの無料のシャトルバスを10分に一本運行しているので、ニーズはあると考える。
【会長】	近隣の博物館や美術館はどうか。
【事務局】	美術館の特別展等の際は遠方からのお客様も多いので、平塚駅から路線バスを利用して来られる方も多い。
【事務局】	今年の夏の企画展「金魚絵師 深堀隆介展」の際には、周辺駐車場はすべて満車となり、駐車待ちの車で渋滞する様子が多く見られた。
【会長】	図書館の利用者が日常的に利用する交通手段を考える際には、美術館、博物館をまとめて考えてはどうかと思ったが、そのような状況だと難しいかもしれない。
【委員】	図書館は静かにすべき場所と考えるか。
【副会長】	静かにしてほしい方もいればある程度話をしたい方もいて一様に考えるのは難しい。静かにすべき場所と話をしても良い場所をゾーンで分けて対応している図書館もある。
【委員】	図書館は静かにしなければいけないとすると、先ほどの資料にもあったが、子連れでは行きづらい場所である。静かにしてほしい方の気持ちもわかるが、図書館を居心地のよい場所ととらえると、多少は子どもが騒いでも自然体でいられるような空間となれば良いと思う。
【副会長】	図書館は色々な利用をしていただく場所であると考えてるので、一概に静かにしなければいけないという考え方はそぐわないと考える。
【事務局】	図書館は静かにしなければいけないと一概に言うことはできないと考える。先日、図書館を中心にした街づくりをテーマにしたあるシンポ

	ジウムに参加したが、図書館は制限がありすぎるとのことで、静かにする場所、音を出してもよい場所とゾーン分けをして図書館を設計した話をきいた。今の平塚市図書館では、ゾーン分けは難しいかもしれないが、建替え等のタイミングでご意見をいただきながら、検討していきたいと考える。
【 会 長 】	北欧の図書館では会話するのが常識で、静かにしたい方は別室に移るという日本と逆の考え方がある。
【 委 員 】	こども室だけでも子どもが少し騒いだりしても気兼ねしないような、そこまで静かにしなくても良い場所となれば、もっと図書館へ行きやすくなると思う。
【 委 員 】	図書館で朗読するサービスや朗読の音源を提供するサービスはあるか。
【 事 務 局 】	視覚に障害をお持ちの方に対し、朗読するスペースを提供するサービスはあるが、図書館職員が朗読を実際に行うというサービスは今のところ行っていない。
【 委 員 】	読書週間等の際、図書館から朗読の音源を提供していただき、お昼の放送でアナウンスしたり、運動会の際に「ぶくまる」が応援合戦に加わったり、学校現場を使ってなにかできないか考えている。
(4) 今後の予定	
2月21日(木)または22日(金) 14時から	
<u>※後日22日(金)に決定</u>	
閉 会	